

京城日報

刊夕日八十

還幸啓御延期仰出さる

天皇皇后兩陛下は十八日東京還幸の期に當り、御延期の旨を仰出され、宮内省より各官廳に通知せられた。天皇皇后兩陛下は、十八日東京還幸の期に當り、御延期の旨を仰出され、宮内省より各官廳に通知せられた。

對支要求内容通告要求説

本國政府は日支對立の要求内容を通告を以て支那政府に通告せん事を求むべしとの説あり(支那電報)

露國募債成功と倫敦

日本に於ける露國大藏證券募集の成功は倫敦市民に對し多大の感動と刺激を與へたり(倫敦電報)

米國の對英抗議準備

本國政府は英國海軍が米國と丁度、諸國、瑞典間の貿易を封鎖すべしとの報に接し、英國に對して抗議の準備中なり(米海軍電報)

希臘内閣改造の固辭

希臘首相ザミニス氏は内閣改造を固辭し、ウエネズロスを推挙せり(希臘電報)

巴爾幹聯合軍の躍進

猛烈なる他戰軍塞軍を走らす、佛軍意氣揚々として前進す

伊軍のトリエスト進撃

羅馬電に曰く、伊軍はトリエスト方面に對して新たに攻撃を開始し、若干の重要陣地を占領し、捕虜一千名を獲たり

伊軍ウアルムニ河東に捷つ

伊軍はウアルムニ河東に捷つ、伊軍はウアルムニ河東に捷つ、伊軍はウアルムニ河東に捷つ

土を捲いて重ねて南進

土を捲いて重ねて南進、土を捲いて重ねて南進、土を捲いて重ねて南進

阪谷男歸朝期

阪谷男歸朝期、阪谷男歸朝期、阪谷男歸朝期

コムフル陥落日に迫る

英軍はコムフルに向つて進軍を續行し、獨兵捕虜二萬三千を獲、コムフルの陥落は旦夕に迫り

支那軍の其後

支那軍の其後、支那軍の其後、支那軍の其後

政務總監響應

政務總監響應、政務總監響應、政務總監響應

軍司令官巡視

軍司令官巡視、軍司令官巡視、軍司令官巡視

新主計監挨拶

新主計監挨拶、新主計監挨拶、新主計監挨拶

製鐵長官歡迎

製鐵長官歡迎、製鐵長官歡迎、製鐵長官歡迎

宇都宮視察團

宇都宮視察團、宇都宮視察團、宇都宮視察團

北鮮航路増設

北鮮航路増設、北鮮航路増設、北鮮航路増設

露貨換算率

露貨換算率、露貨換算率、露貨換算率

常任代官報告

常任代官報告、常任代官報告、常任代官報告

學校組合召集

學校組合召集、學校組合召集、學校組合召集

龍山有志協會

龍山有志協會、龍山有志協會、龍山有志協會

石塚長官上野

石塚長官上野、石塚長官上野、石塚長官上野

小磯少佐入京

小磯少佐入京、小磯少佐入京、小磯少佐入京

仁川小販販路

仁川小販販路、仁川小販販路、仁川小販販路

津浦鐵路

津浦鐵路、津浦鐵路、津浦鐵路

天寶山銅山近況

天寶山銅山近況、天寶山銅山近況、天寶山銅山近況

山元

山元、山元、山元

浦南鎮

浦南鎮、浦南鎮、浦南鎮

浦木

浦木、浦木、浦木

虎列拉は斯くせば恐るゝに足らず

梨と水蜜桃から

仁川の虎列拉の發生系統に就ては其後取調べ中なるが十八日に至り其發病の直接原因と認めべきは何れも果實にして仁川府花平里二百十三番地榮港人夫朴治勲(ハ)は妻金姓女が四五日前より病氣に罹りたるを以て仕事を休みて妻の看護中十五日夜附近の果物商店より梨を買來りて妻にも喰べさせ自分も食したるに病妻は忽ち烈しき吐瀉を起して死亡し朴治勲も亦烈しき吐瀉を起して前記の如く隔離病舎に收容せられたり猶十八日真正虎列拉と決定したる花平里柳七星は重なる調査に著手せり

仁川の虎列拉の發生系統

仁川縣華城郡の勝寧なるが十六日夜市場附近の果實店より水蜜桃を買つて食したるが原因と成りたるもの如く此の外に病難感染の直接原因と認むべきもの更になしと

傳染系統取調べ

仁川警察署にては今回市内に突發的に發生せる五名の眞正及び疑似虎列拉の傳染系統が或は市内に非ざるの疑あるを以て過日來急務にて死病舎に就て過日來急務にて死病舎に就て過日來急務にて死病舎に就て

仁川の虎列拉の發生系統

[illegible]

長春附近に於て觀兵式舉行

滿洲駐屯軍第七師團本年度秋季機
動演習に來る十月九日より開始し小
部隊より漸次大部隊に及びて全師團
の對抗演習を舉行し十七日を以て結
了すべく内定し其地點は長春公主
嶺に於て行ふ筈 曩に同師團參謀
長上田大佐來りて地形の偵察を爲し
當地の模様を調査し畫したるが更に
本月十二日來長し山内領事及び樺本
警務署長等と配々打合せをなし十三
日午後十時半上田參謀長は南下歸國
せり因に公主嶺迄は汽車行軍にて前
一部の先遣隊は來月九日來長し和
方漸次前進して十里堡(長春)附近
の約七キロメートル附近にて師團警
抗演習を舉行し漸次長春附近に於て
繼續を續けたる上田大佐は長春
附屬地開屋敷北方廣場に於て觀兵
の行ふ筈官兵合同演習場は長春
驛構内と決定せり尙新市街全部を
用するも觀兵困難なるため或一部
丘城内支那人家庭に宿營する由

(長春通信)

に虎寝發生せるに就き鐵道局

かひぬんそうで

係員總出で忙しい釜山檢疫所

神仙臺の第一號停留室落成す

内地に於ける虎狩拉の盛延延々激烈つゝあり流行指定地は十七日より
となり釜山にても釜山、大邱、蔚山、東京、大阪の二府三縣に千葉、
佐賀、熊本、鹿児島、那覇、各府県に波及し、仁川共に警戒を要し安全なるべき
乗客の衛生状態に注意し更に列車にも唯一山方面よりのものとみえなれ
釜山の材料は一切釜山にて買込まざる次第なり

神仙臺の第一號停留室落成す

内地に於ける虎列拉の蔓延甚しき瀬戸内海に於ける三浦等にも發生せしを以て釜山警察署にては防疫を益々厳重に勵行しつつあり更に今回看護婦十二名を雇入れ十七日夜釜山に渡船し對馬九より毎船に三名迄を乗込せし二船密なる検査防疫をなす筈也昨午山縣衛生局長所派員應出にて亡殺されしあり流行計此地は十七日より東京、大阪の二府神奈川、千葉、川崎、横浜、島根、兵庫、福岡の諸縣一體とし熊本縣天草郡、京都府紀伊郡、熊本市佐賀縣武浦郡、大分縣速見郡、愛媛縣温泉郡等益々擴大を見るに至りたれ故に十八日以後の山縣留宿者は多數に上神佛堂の位室は落成と共に收容せらるるべし

(一筆抄)

淀泊中なりし
廣島縣加茂郡

合は斷然たる處置をこる
 月創總督府學務課長の談
 する乎
 中に隔離せるが患者は近く流行地等
 時頃より烈しく吐瀉を爲し虎列拉の
 症候現然たるより直ちに患者は遊船
 遊夫山下孝太郎(三)は十七日午前五
 方魚津
 釜山救の島津
 和、田、市、道、所、在、市、署、總、集、組、本、部、の
 五郎は他の乗組員と共に十七日午
 一時方魚津港に向ふ途所俄かに
 瀉を始め方魚津に引返したる者が
 醫師の診斷に依り疑似コレラと
 糞便は釜山に送り該船は十二日
 より来るものにして系統船中
 司船乗組員は約四十名にして内

萬一の場合は斷然たる處置をこる

萬一京城に虎疫が侵入して來た場合に學校生徒の授業を如何にす可きかと云ふよりは今日から豫め計畫して置かざらばならぬと思ふが爲に實際其事に當つた場合に臨機の處置を取つて他に違はないと思ふ一學校の生徒中より虎疫患者を出したる故を以つて直に市内全學校の授業を休止すると云ふ譯には行かないけれども同時に學校生徒中では一人の患者を出したるが爲に市中では驚愕の起るものがある

月 創總督府學務課長の談ありとすれば斷然各自私立學校に向つて閉鎖命令を發する考である小學校中には 明に傳染流行の際に於ける學校の授業の休止に關した規程が設けられてあるが朝鮮教育會中には此明文はない然し公衆衛生上から云つても當然相當の處置を取らなければならぬと思ふ我徒のやうなものと違つて虎拉は一層交通通新の防疫的處置を要する次第である

同船乗組員は約四十名にして内地に名目患者と共に方魚津に引返へしは出漁し十七日夕刻方魚津に歸港したる或は咸北龍浦島に寄港したるやも知りたるを以て目下其筋に手を配中なり

▲金海 慶尙南道金海郡左内地人一名疑ひ而ギョボウ里にて内地人一名疑ひレラに罹つたるは十七日午後六時レラに罹つたるは十七日午後六時

海鏡兵衛隊長より警務廳警部に出張あり殺傷不則兇手捕中なりと

川加平里二百十三番地朴治勳(三)

は十五日より暴しき時演を爲した十六日死亡したるが同人妻金姓女は十四日より吐瀉して十五日死亡し又朴治顯を看護したる同人の兄朴泰顯の妻は十六日より發熱十七日夕刻死亡したるを以て直ちに患者の糞便を檢査したる處、虎列拉菌類似を發見し引續き檢査中なり

▲原技師急行 警務總監部原技師は細菌檢査の爲め十七日早朝二川に急行せり

▲入港船舶の警戒 三井物産、三菱、郵船各運轉船に警戒

萬一の場

萬一京城に虎疫が侵入して來た場合、學生生徒の撲滅を如何にすべきと云ふとは今日から豫め計畫して置かなければならぬとではあるが實に其事に當つた場合に臨應の處置をより他に途はないと思ふ。學校の生徒中より虎疫患者を出したる故を以て直に市内全學校の撲滅を停止すると云ふ譯には行かぬといへども時に學生生徒中には一人の患者をも置きたることも市中に虎疫患者の

醫師の診断に依り疑似コレラと

談 校に
小の
際、に
た規
上な
留中
上か
やう
通通
るに

裏便は釜山に送り該船は十二日釜山より来りたるものにして系統調中なり同船乗組は約四十名にして内三名は患者と共に方魚津に引返し他は出漁し十七日夕刻方魚津に歸港の豫定なるも或は成北龍浦島に寄港するやも知れざるを以て目下其訪にて手配中なり

●金海 慶尚南道金海郡左部面ギヨボウ里にて内地人一名疑似コレラに罹りたる員十七日午後六時金海兵務隊所長より報告該部中に急病者あり送附不則該役手配中なりと急

に從ひ歸還に就きたるが故に歸船後初て本國の船の未だ歸らざるに不審を起し直に引返して舊後港河合を據

●須摩丸 に發生 門司に停船中
大阪郵船會社出帆三原航線客貨船須摩丸三十九名船員四十八名を乗せたる船は十七日午前船員に疑似虎刺拉門司港に於て停船を命せられ目下下客一名養生せるを以て釜山行船客便船中なり同司特電

せんせん げん にきれい
●全鮮の檢疫勵行
警務總監部にては二十日頃より朝鮮艦をなすべく又各港歸航船の船頭檢査全線に互に主警察にて旅客の檢査も嚴重なる拘疫を勵行すべき手配

原に航行し、随て七時頃、行數變

山三他ののす都金急

從ひ船迄に就きしが、漁船は歸船後、陸後釜山行前、船中に神傷する事
初て基隆の船の未だ歸らざるに不審、三回に及びたれば直に神傷を發覺
全起し直に引返して舊後福神合を探しに收容候儀を行ふ事に決せり（釜山）

須摩丸 に發生 門司に停船中

大阪商船會社船、關川縣販賣汽船須摩丸三十九名船員、四十八名を乗せたる、
磨丸は十七日午前船員に疑似虎刺殺、門司港に於て停船を命せられ目下下
患者一名養生せるを以て釜山行船客、便檢中なり（門司特電）





全鮮の檢疫勵行

朝鮮總督部にては二十日頃より朝鮮、診をなすべく又各港灣、輕便の船、
鐵道全線に互に主要點にて旅客の檢、を嚴重なる檢疫を勵行すべき手筈

國縣東松浦郡唐肆柴田イツ

朝郵 診をなすべく又各港船頭泊の船頭
の檢 重なる拘疫を勵行すべく手配
に發 生 門司に停船中
代船頭三十九名船員四十八名を乗せたる
船刻拉門司港に於て停船を命せられ且下
行船客便檢証中なり(門司特報)

上

 <p>仁川本町二丁目 百三十銀行 仁川支店 電話四五八番一〇一振替貯金京城五五</p>	 <p>仁川本町二丁目 十八銀行 仁川支店 電話一八番九八振替京城二七六</p>	 <p>仁川本町一丁目 朝鮮銀行 仁川支店 電話二番三三三振替貯金京城三四〇</p>	 <p>仁川本町三丁目 朝鮮商業銀行 仁川支店 電話八四九番振替京城一〇六三番</p>
---	---	---	--

(順序不同)

及以石原事務官等勸列し所轄官館本

鈴木十郎、今井佐吉、村山太郎、金子清三郎、中山一郎、高橋三郎、渡辺良、金子雄太郎、藤岡、中村一歩、武田孝太郎、
二、三名、上林辰一郎、岡ひでの、西原八十八

佐市、龜村青兵衛、我本秀男、永岡米吉、助、松森雅吉、上山、林、武田、

題 募集規程

▲九月十九日
十八日午後六時方

西曆	滿清
光緒二十九年	宣統元年
庚申年	庚申年
十月十九日	十月十九日
十月二十二日	十月二十二日
十月二十五日	十月二十五日
十月二十八日	十月二十八日
十月三十一日	十月三十一日
十一月二日	十一月二日
十一月五日	十一月五日
十一月八日	十一月八日
十一月十一日	十一月十一日
十一月十四日	十一月十四日
十一月十七日	十一月十七日
十一月二十日	十一月二十日
十一月二十三日	十一月二十三日
十一月二十六日	十一月二十六日
十一月二十九日	十一月二十九日
十二月二日	十二月二日
十二月五日	十二月五日
十二月八日	十二月八日
十二月十一日	十二月十一日
十二月十四日	十二月十四日
十二月十七日	十二月十七日
十二月二十日	十二月二十日
十二月二十三日	十二月二十三日
十二月二十六日	十二月二十六日
十二月二十九日	十二月二十九日
十二月三十一日	十二月三十一日

クラス萬年筆

京坂本町二丁目
 朝鮮總代理店
 釘本藤次郎本店
 電話四五〇二七四番
 特約店 京坂本町二丁目 町田商店

三井物産
 京坂東大門外紅葉町
 朝日石鹼製造所
 電話二六三三五番

目品業業營
 肥料部
 養料粉、乾血、蹄角粉
 果印配合肥料、細工用肥質
 細工用蹄角各種膠及膠原料
 石鹼部
 化性用石鹼、工業用、家庭
 用石鹼、浮石鹼、粉未石鹼
 牛脂、椰子油、鯨油、其他
 油脂類、苛性苛達、洗苛達
 京坂關前町一四番地
 朝日石鹼製造所
 電話二五六四番
 振替口座京坂四〇〇番

水々く 黒髪
 純良香油に美毛劑調和
 如何髪二度忽ち色艶を現
 ホーカ一美髮液
 定一瓶世界無比
 價 送料別 附 化粧箱
 秋
 京坂東大門外紅葉町
 朝日石鹼製造所
 電話二五六四番
 振替口座京坂四〇〇番

仁川本町三丁目 (順序不同)
 朝鮮商業銀行仁川支店
 電話八四九番
 仁川本町一丁目
 朝鮮銀行仁川支店
 電話一三三番
 仁川本町二丁目
 十八銀行仁川支店
 電話一八番九一八番
 仁川本町二丁目
 百三十銀行仁川支店
 電話四八番二二番
 電話四八番二二番

晴れ一時曇り
 九月十九日
 九月二十日
 九月二十一日
 九月二十二日
 九月二十三日
 九月二十四日
 九月二十五日
 九月二十六日
 九月二十七日
 九月二十八日
 九月二十九日
 九月三十日

白楊の並樹

△清涼里の
△東大外から清涼里の秋景色は、
一面の緑、果樹、果林など、何れも
秋の情趣、味に満ちた。

△秋の情趣、味に満ちた。
△秋の情趣、味に満ちた。
△秋の情趣、味に満ちた。

商況

東京米相場
大坂米相場
各地米相場

米相場
米相場
米相場

米相場
米相場
米相場

米相場
米相場
米相場

米相場
米相場
米相場

米相場
米相場
米相場

お休

△お休
△お休
△お休

△お休
△お休
△お休

日記

△日記
△日記
△日記

△日記
△日記
△日記

△日記
△日記
△日記

△日記
△日記
△日記

△日記
△日記
△日記

△日記
△日記
△日記

新義州小學校休校

△新義州小學校休校
△新義州小學校休校
△新義州小學校休校

△新義州小學校休校
△新義州小學校休校
△新義州小學校休校

元山教育會

△元山教育會
△元山教育會
△元山教育會

△元山教育會
△元山教育會
△元山教育會

△元山教育會
△元山教育會
△元山教育會

△元山教育會
△元山教育會
△元山教育會

△元山教育會
△元山教育會
△元山教育會

△元山教育會
△元山教育會
△元山教育會

珠算の新教授法

△珠算の新教授法
△珠算の新教授法
△珠算の新教授法

△珠算の新教授法
△珠算の新教授法
△珠算の新教授法

神社とお寺の教育

△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育

△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育

△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育

△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育

△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育

△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育
△神社とお寺の教育

△お休
△お休
△お休

下欄相場

△下欄相場
△下欄相場
△下欄相場

△下欄相場
△下欄相場
△下欄相場

△下欄相場
△下欄相場
△下欄相場

△下欄相場
△下欄相場
△下欄相場

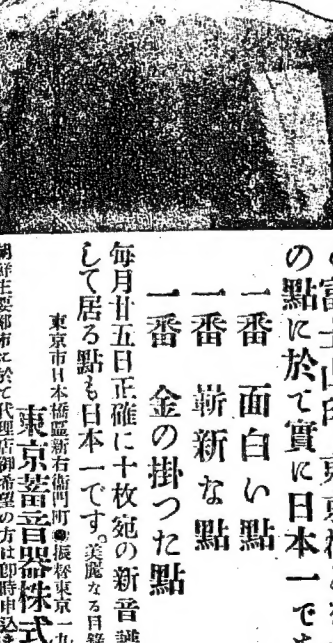
△下欄相場
△下欄相場
△下欄相場

△下欄相場
△下欄相場
△下欄相場




林檎と梨

朝鮮高政院
弘益殖産株式會社農場
電話 東京 二六〇六



忠疫流行

今も仁丹
値うち千両



金露

製造元大塚醸造所
各地に所信ある食料品
店に販賣せり金露印と御
指定御買上被下度候
東京 大塚 支店
電話 四〇五〇



寫眞の好期節

何時より御家庭へ伺ひ
寫眞の好期節になりました
東京 寫眞館
電話 一〇四〇

東京 寫眞館
電話 一〇四〇

觀光外客招致策私見(二)

日本のホ

本に於ける現今のホテルは先づ一
種類の種になつて居るが、外國で
通三種類のホテルに分たれてある
遊覽地尙としてこのレポートホテ
ル相手のコンマーシャルホテル
で一般の旅客が只今の料金を渡
して居ない上に何をも設備不充
てが舊式であるかやうにも思
れる。次に第地精粹ホテルは外
さ言へば、彼處は六七十人の外
散客するには容易であるけれど

種のレストランとして、ホテルでは餘り居心地がよくないと思はれる。味や設備などが多いために客の出入りが激しく、今少しく方法を講ずれば到底外人客の満足を得られ

轉然として居らず、且つ料金設備
 人も別に「クラス」がないので、一般
 人に満足せしむることが出来る。
 は東京帝國ホテルの如きは此の
 種の「にも」も聞かず、寧ろシ
 アルホテルでも申せようか、其
 院より「隔壁」に貸し下げ經營せし
 られて居るが、料金も廉く且つ日
 人向きにも使つたといふので、照
 以て多數のお客はあるやうだが、

彼は總て遊樂地向けのレゾート式になつて居つて、一外人経営のホテルを除く外は、その税金の半に納付せざるを得ない。總て遊樂地のホテルが、季節の爲めに苦しめられて居る。根柢から外人に占めては適當でないものである。これは得違其他總て人に満足させることが出来ないのである。コンフォートなホテルとは申されぬ。又上野公園や、樂地同様、氣持よくホテルとしては如何のものか。

何と云ふに、レゾートホテルは季節の爲めに一年の間に高賣する期間が短かいので、何しても経営難の方に多いやうである。現に鐵道院には下關のホテル、奈良ホテル、京都ホテル、奈良ホテル等が皆経営難の主なる向に出来た外、本協賛主なるもので、一長一短はあるけれども、

當の困難などは同一のやうである。客の評判もよいのであるが、見送るに、松の浦でゐる朝鮮ホテルを始めて、朝鮮鐵道沿の直營に倣ふ釜山居る爲め、一年の大抵は期間満了を免かれぬ。次に外人經營のを見るに横濱にグラントホテルリエンタラパス、ブルザン

天等に於て居る。遺物ながら皆れ分りて、
 成績を擧げて居ないのである。さ
 れば假令相當の資金を投じて、
 假令相當の經營が如何に圓
 満であるかが推知するに難からず
 といふが、
 神戶にトアホテル、オリエン

見たいと思ふ。
▲現在日本に在るホテルの設備

ホテルの設備は茲に現在日本に在る各ホテルの設備に就いて少々考へて

それで私は、
つた風に見える。そこで私の考へは假りに根本の設備から改めて方をツーリスホテルとし一軒を

期間甲が好むが或る期間乙が、何ふ需要より供給が餘る

昨年十一月本社不慮祝禱の厄に遭ひたるも十萬愛讀者諸君の爲に倍々奮闘努力平常の眷顧に酬あんこし今日に及びたるが其間同人の精勵と江湖の贊翼に依り直に再樂に著手したる小屋も愈愈目ならずして落成を告げ太平街頭巨然として前日の雄姿を現さんとするは海に歌麿に堪へざる所也されば今回聊か自祝の意を表する爲め來る十月一日より十日間再築落成號を發行し更に一層紙面の體裁記事の精選報道の迅速正確を期し以て江湖の愛顧に酬あんこす是れ同人の微衷に外ならずる也敢て再築落成を報じ併せて倍々江湖の御同情を冀ふ敬白

大正五年九月 日

京城日報社

大正五年九月 日
京城日報社

附明の十三

「彼れが萬壽山ですと。其隣りの小山が王鳳山で、北原の水道は彼處から引いて來るのです。」

此意を遂して西方を眺めると、鐵路

二一 疊 楚 桂

前の方では見られた園やなほ、
「此奴等は善惡に當てないから、
河口を築地敷として蒙古方面から
り集めた奴を豊登で屠殺して下皮
するんだ相だ。」

編子に貨車二三臺、生牛の貨車一

本誌定價

本埠	每月一元二角
外埠	每月一元五角
郵費	每月二角
廣告	每行每日二角

發行所 京城日報社
地址 東京市丸の内區千代田一丁目

ける筈ではあるが、貨物の都合で東京の方から電報でもあれば中止するかも知れない」と云ふし其れに時間の方がよき相だ。結局海に背馳した切符を買ひ足して萬里の長城を先にする事にする。見物した後で考へるに矢張り此處更日程の方が都合がいい。何れは京城間列車通暢の都合も尚少しは改良されるに到つてであらうが、今の地位に居るにつれて日を費やすより外代方がなく又其れが最も上手な體裁なのである。

鄭君が三日にくと支那服の着衣が三四人押掛けて来て頻りに喚り出す都引たるに相成。南口ホテル、鐵道支那支店、チンニハホテルなど支那支那字で裏表に印刷したカードを突き寄せる。一體にするの一圓五十銭にするのと學生連は頻りに冷笑的に笑つてゐる。

「南京曲がるやしないか？」

新設簡易科 今回尋常科に
入學受驗者の爲め簡易科を新設して
十月一日より開始す卒業期は各
月大に合ふべし三月四月受驗の者にも
分間に合ふべし小學校卒業の後に
入力を補修せんを欲する男女若
くは他科と共に合間に添ふ無代
進呈す

師

範

實業之日本

漢學講義錄

「學述」一書研究經史論衡
學術源流。博採衆長。兼收並蓄。
新學期開講。天特典提供。自下入會的最好機會。速成一。今年名譽。圖書
詩文募集見本付會即無代進呈。東京神田裏神保町帝國漢學普及會

私資本

日比谷嘉晴 村井重良 德氏

山林の廢物を利用する有利事業あり

青年會へ註文

戸部士 新渡 健口 五十 五郎

郵船會社新營業部長伊東次太郎氏

新實業哲學

澤田 博士

東京商塾の新實業紀各商家必讀を乞ふ

銀行遊び金はさうする乎

和田豐治氏 志立憲藏 藤瀬政次郎氏等

明快遊切なる處分勘案必讀の文字

國家の品位

増田 社長

有利なる商品の仕入方法

南洋有利事業

三吉香島

南洋より新歸朝者

貧困の試煉

稗堂

虎皮豫防の十箇條に注意せよ 神田彌平

本會 師範本科(改正)一年半卒業
三本 師範本科(改正)一年半卒業
大 師範本科(改正)一年半卒業
英 英語科(短縮)一ヶ月卒業
語 英語科(短縮)一ヶ月卒業

講義 師範本科(改正)一年半卒業
三本 師範本科(改正)一年半卒業
大 師範本科(改正)一年半卒業
英 英語科(短縮)一ヶ月卒業
語 英語科(短縮)一ヶ月卒業

義 師範本科(改正)一年半卒業
三本 師範本科(改正)一年半卒業
大 師範本科(改正)一年半卒業
英 英語科(短縮)一ヶ月卒業
語 英語科(短縮)一ヶ月卒業

講義 師範本科(改正)一年半卒業
三本 師範本科(改正)一年半卒業
大 師範本科(改正)一年半卒業
英 英語科(短縮)一ヶ月卒業
語 英語科(短縮)一ヶ月卒業

九月二十一日より營業開始

文川間 鐵道開通 廿二哩

新設停車場 箭灘 高原 永興
 箭灘停車場に於ては旅客手荷物に限り取扱致候

朝鮮總督府鐵道局

文學博士 高山林次郎先生遺稿 嘯風 芥舟 臨風 愚佛 共編

增補 縮刷 樗牛全集

約布 天金銀三五五兩 總紙數五千餘頁 正價各書圖五拾錢
 寄費 著者小照半張附 六百五十篇 內地送料十錢宛

第六卷 日記及消息 最新刊
 引及續著の絶文宋
 を附録す

東京 博文館 本町

實業之日本

山林の廢物を利用する有利事業あり
 青年會へ註文
 郵船會社新營業部長(伊東次郎氏)
 新實業哲學
 東亞商會の新實業(各商家必讀を乞ふ)
 銀行の遊び金
 和田豐次氏、志江總次、藤岡致次郎氏等の明快適切な處分勸業必讀の所也
 國家の品位
 南洋有利事業
 南洋に新開闢者
 貧困の試煉
 尾花榮防の十箇條に注意せよ
 尾花榮防の十箇條に注意せよ
 尾花榮防の十箇條に注意せよ

漢學講義錄

新學期開講 天崎典提供、目下入會の最好機、遂に、
詩文募集 見本付會則無代進呈 東京神田裏神保町帝國漢學堂及
大倉明哲館

新刊書御案内

●救世主漢相大辭典 著者 定稿
●救世主 學年別各科教授法 第一八〇
●牛 公井敦郎松尾良一編 全六卷 一五〇

●大日本史史實彙集 史記 二一〇
●國領東印度事情 著者 南島編輯 八〇
●朝鮮半島日記及消息 著者 延平閣 一五〇
●劇業叢書 鷗法に都て 下巻 七五
●生死罪福と武士道 津田氏執筆 一二〇
●朝鮮鑑要覽 金龍館編輯 七五
●朝鮮と金 鏞町山田長作 一七五
●將府奇襲大英の危機 富家斎 七五
●此の如き邦文は如川中作治郎 六五

●實業實錄 立身傳 佐田五五
●支那醫術自療 寶典 川本五〇
●支那經濟食物の研究 伊藤三上 六五
●手工の圖案 西谷五代策 八五
●手帳百戰百勝 川井非助 五〇
●工務會計珠算の秘訣 秋吉本五〇
●實用計算法秘傳 五〇

(H) 大阪屋號書店
京橋市堀江四二〇八六 振替東京 五七三

[illegible]

品質優秀に
酒 醋
最後の勝利獲得す
京都小町三丁目
特約店 山本富之助商店

第貳卷 文學及美術史十版 第四卷 時論及思案五版
 第貳卷 文藝評論十版 第五卷 想華及小品七版
 第叁卷 史論及史傳九版 第六卷 日記及消息新刊

改正會則無代進呈
東京牛込
津久戸町
本日 師範學會

義美

第七卷 第六部
 第六卷
 日記及消息
 最新刊
 本館編輯
 東京
 正價各書圖五拾錢
 內附送料十錢
 總布 天金隆三五段五兩 總紙數五千餘頁
 各卷 著者 小照原漢後 六百五十餘
 成完卷六部全

[illegible]

九月二十一日より營業開始

文川間 鐵道開通 廿二哩

新設停車場 箭灘 高原 永興

箭灘停車場に於ては旅客手荷物に限り取扱致候

朝鮮總督府鐵道局

文學博士 高山林次郎先生遺稿 嘲風 芥舟 臨風 愚佛 共編

增補

縮刷

樗牛全集

日本師範學會出版書

小學教員 檢定試驗 受験の栞

定價上製八十錢並製五十錢稅入
右各府縣大正五年度檢定問題答案

東京遊學及苦學

第貳卷 文學及美術史十版 第四卷 時論及思案五版
 第貳卷 文藝評論十版 第五卷 想華及小品七版
 第叁卷 史論及史傳九版 第六卷 日記及消息新刊

第貳卷 文學及美術史十版 第四卷 時論及思想 索五版
 第貳卷 文藝評論十版 第五卷 想華及小品七版
 第叁卷 史論及史傳九版 第六卷 日記及消息新刊
 第三巨養成

就戰が早く、堅固な戦ひを要するものゝ内閣、軍
 朝鮮、支那及外國にて活動せられ、且下議院を
 會の議決、殊に、昨は、新選にて、合符なり、會
 問及講師は、後、翌の部、大衆に、ある、青年、及

品質優秀に
酒 醋
最後の勝利獲得す
京都小町三丁目
特約店 山本富之助商店

品

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

村北 ● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

錄

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

● 教授野字
● 教授一個其
● 大流一個其

[illegible][illegible]

新刊書御案内

著者 定価
精養軒成漢和大學館吉田孝二氏
教授兼主 學年別各科教授法第一
ごしする 公刊致知社出版

十八日午後迄に九名發生

十七日より十八日に至る間に於て眞一組都合四組を組織し數十名の入夫性患者二名、疑似患者三名を察發せる仁川の虎疫は同地警察府監が協力防疫に死力を用ひつゝあるにも拘らず同日午後三時までに更に四名の疑似患者を續出するに至り復検査の結果或れは虎疫拉開を有する事判明したるが該患者は仁川轉船場八十一番客船「羽生丸」一同被檢せられたるに當り

一組都合四組を組織し數十名の入夫を押捺して患處の消毒隔離、附近の交通遮斷、死亡者の運搬葬に從事し然んど疑念を忘れて活動し居れるが更に一方仁川在住の重なる者は防疫手段の一端として警察官達の示達と相待ち各町居住者にその注意を與へて虎疫防疫委員を設けんと密々

交通遮斷と郵便物の消毒に就いては今迄必要を認めざるが如くなるも今後模範によりては實行するに至べきが目下にては交通遮斷區內居住者宛の情書は附近に出帆せず官に傳達を請ふべくその附近の發信は嚴重なる消毒の上之を

虎疫發生以來仁川

遊病舎なる寺に病院にても日鮮人
 十三名を收容し得べく又内地人隨
 遊病舎なる寺に病院にても日鮮人
 十三名を收容し得べく又内地人隨
 遊病舎なる寺に病院にても日鮮人
 十三名を收容し得べく又内地人隨

車中仁川南大門各驛間

院發生と同時に仁川警察署にては
 一八日仁川密の各列車中、乗客を乗
 運せしもの乗客に對し檢査病
 菌を爲しつゝある又各客車
 に出張各乘客に就き詳細なる問

車中仁川南大門各驛間檢病的調査

消^{せう}毒^{どく}丸^{わん}
の^の後^{あと}を^を参^{まゐ}ふ^て

虎疫發生部落を視察するの記

白い消毒衣を着けた多数
 部落に倂
 平里では既に五

大排場へ連ふ麗麗らしい娯樂の類に
通るものゝ不氣味だ、此不安に落ちた
間街を離れると直ぐに喧嘩聲の手前
丁條との龍里と隣近の鐵道線路
石炭が一面に撒布されてゐる、



○上圖 仁川北平里に於ける患家の消葬(中央右) 虎刺拉患者收容の寺田臨病院(同左) 患者運搬箱の消葬(下圖) 患者の運搬箱

したるも最早や終端に近
の如し。岐は十一日以來

京城荒しの
 女一通の嗜は

には昨年来各町に万り金
頭々として起るより所轄本

宮内省出入商人
開場式を舉行
校舎竣工
遊足

注意を加ふるため相當の
るに依り恐れ多き事なから

聲は延期を命ずるに至りたる次第
 なりと 疾は反東歸也
 渡宇の面々といひ京城西小門町有
 一罪地に居住して紳士風を慕ひて
 賢澤有る生活 をなしたむた

竊取一個(三十一圓)を

入り替へ一圓(三十二圓)を窃取して
之を附近の舞臺に入贅したるより足
がつき早くも風を喰つて登山に逃走
中を遂に本町監山兩署の刑事に取押
尾崎都と共によつて来る京城府庭

◇部長代理で
西脇親視が
女の慶喜を奪はんと欲し、遂に

うゝ。其時、津島は奮然として見送した。

現金二十七圓衣類十點(百)

を窃取したを手初めに同年十二月十九日夜は西小門大詰某方に六十圓の金品、本年三月廿二日夜は主等参列するや玄關直轄の式館が有り、大いで官館番長は起つて「各々

窃取し贓物は他の地方に

き巧に妾を贈しむることを判明せし
尚ほ同人は大正二年中旅籠義興所
にて窃盗罪に依り懲役一年の處分を
受けたる前科ある大賊なりと

すると否とに鑑に生徒たる娼妓の
掛けにある事だから、他日

◆一家の主婦
たり取らるゝ

第一、娼妓者ならば彼は其が娼妓であつた

警察署にては虎刺拉病豫防

し方の女をいふ事なき。一婦直臣に對して示す法に在り(二可)。

「一婦」又は下例の如く是る時は連に國人の診察を受ける人なり。

三、醫科の長官は、前記に勿論を成る可く不治作及骨片、膿血、腐爛料とし茶之湯生ずる

飲食物及び飲食物用器具には、細菌の

五、船に調子師を乗せ
六、未だ船底の重荷は他の二隻に餘分荷を載取せ
七、所へんが事無き様にも思ふ時は時々艀を離れ、舟長に報告し候ふ事

援を受けるものである之を三組に
けてあるが一組は朝鮮人婦で毎
午後一時から同三時迄とし各組は
日に授業される尙餘身科は警察官
又は教師、親戚、救護人などを呼んで聴
又はその邊りを通るもの

大澤 幸三郎 (大澤 幸三郎)

女一通の嗜は
持てよと
男
始めるは、第一に點
得たる機に、不
に、反、打ち、五箇に、とす、で、に、
今、持、この、指、の、操、う、う、離、

餘圖を投じて此夏から書出

に増強中であつた新田女系親は此程
竣工したので十八日午後一時半から
開式式を舉行
校舎は二階建
で南に二窓
園子橋上可西睦山田

使となつた氣の咄は、朝は早朝

[illegible]

見渡した

[illegible]

正しやうめん面に著ちやくせき席せきし側かためん面めんには女にょ

月 朔未廣時、水 龍船秀子との閑居、初め女
 紅毛取組、安部吉氏以下、諸君盛々極
 主等参列するや、川真緒の式舞があ
 たり、大いで、宮前番長は起つて「各儀
 出来な△△よ、このは某君何の因度思
 ても済ます位△△それに蛇巻は新ら
 い毛布は清軍毛布の新らしいのぞ、
 何一の不足がないが難附つたこそ、
 出来な△△よ、このは某君何の因度思

とある、ほんせつ建てた女紅場の實成料にようはの

せしめ所を
 するも否かは體に生徒たる娘奴の心
 掛けにある事だから、他日
 ◇一家の主婦
 たり取なりたる
 第一、一經に於ける者から彼は前よりが朝服であつたこと
 かせたさうな▲これなど、は木浦
 會館所の某君が神佛堂の檢校所
 の日に草蓑の美妓を同室した以
 珍談であらう

[illegible]

